



陥没した道路



特集 地震から身を守る

本が散乱したふじしろ図書館



倒壊したブロック塀

令和5年9月1日で、関東大震災から100年の節目を迎えます。平成23年には東日本大震災が発生し、取手市でも写真のような道路の陥没やブロック塀の倒壊などの被害を受けました。しかし、時間の経過とともに、被害を受けた記憶は薄れがちになります。地震は、いつ、どこで起こるか分かりません。今回の特集では、過去の大地震で受けた県内や市内の被害状況を振り返りつつ、今後起きると想定されている地震や日頃の備えなどを紹介します。今一度、地震への備えを見直しましょう。

☎ 安全安心対策課 ☎ 内線1182



SDGs17の目標
11 住み続けられるまちづくりを

取手市は エスディージーズ SDGsの取り組みを推進しています。特集記事に関連するアイコンを掲載します。

関東地方で被害が出た主な大地震

◆ 関東大震災

関東大震災を引き起こした大正関東地震のマグニチュードは7.9です。この地震では埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で震度6を観測したほか、北海道から中国・四国地方にかけての広い範囲で震度5～1を観測しました。この震災では、約29万棟の住家が全壊・全焼しました。(令和5年版防災白書 特集1「関東大震災と日本の災害対策」(令和5年6月公表))

茨城県内では当時水戸と筑波山で震度を観測していて、どちらも震度4でした。※当時の震度階級は震度0～6までの7階級で、震度4は家屋が激しく揺れ、座りの悪い置物が倒れる程度、震度5は家屋の壁に割れ目・亀裂が入る程度、震度6は家屋が倒れる程度となりました。

家屋の倒壊状況などから相模湾沿岸地域や房総半島南端では、現在の震度7相当の揺れであったと推定されています。

◆ 東日本大震災

東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震のマグニチュードは9.0です。この地震では宮城県栗原市で震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県の4県37市町村で震度6強を観測したほか、東日本を中心に北海道から九州地方にかけての広い範囲で震度6弱～1を観測しました。

▶ 取手市の被害状況

- ・最大震度：6弱(立っていることが困難で、固定していない家具の大部分が移動したり倒れる程度の揺れ)
- ・家屋などの被害：4,348軒(うち半壊以上371軒)
- ・停電：1万1,700軒(ピーク時)
- ・漏水：63カ所
- ・避難者：658人(帰宅困難者・自主避難者の合計でピーク時)